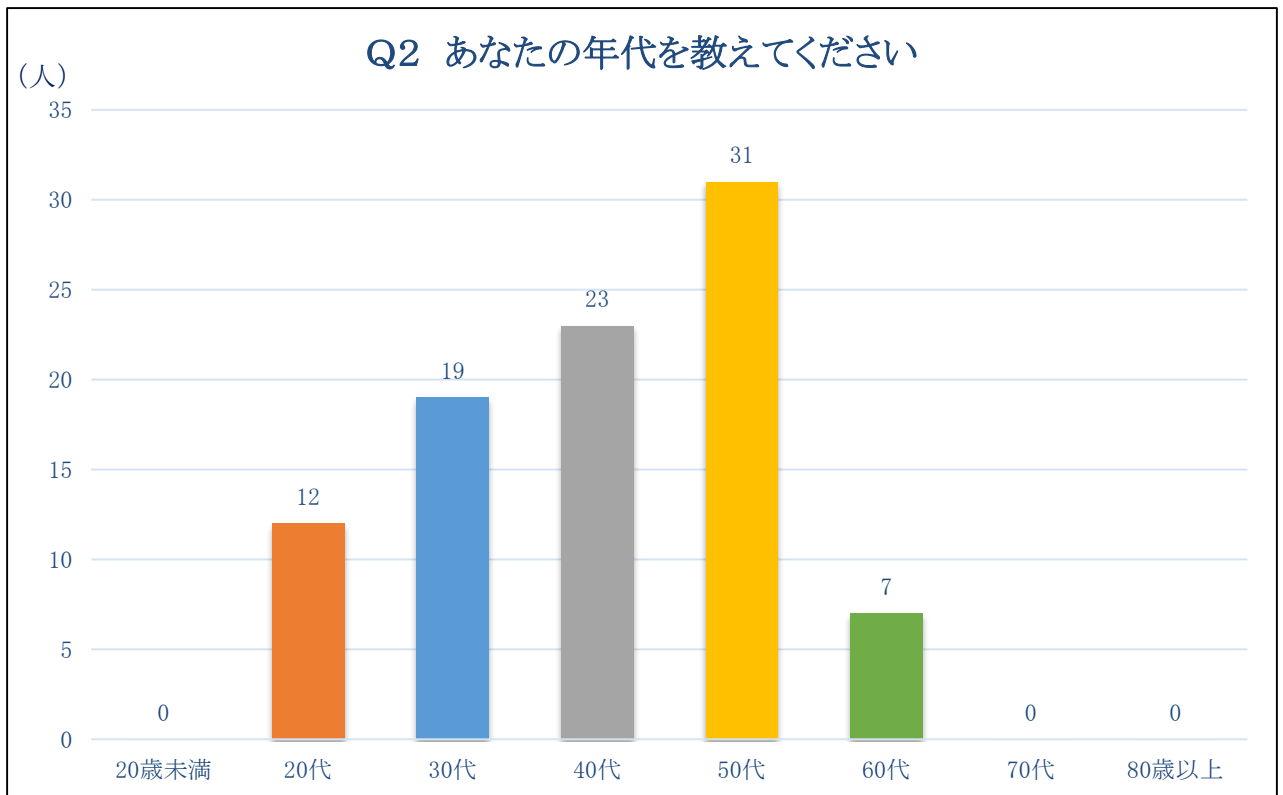
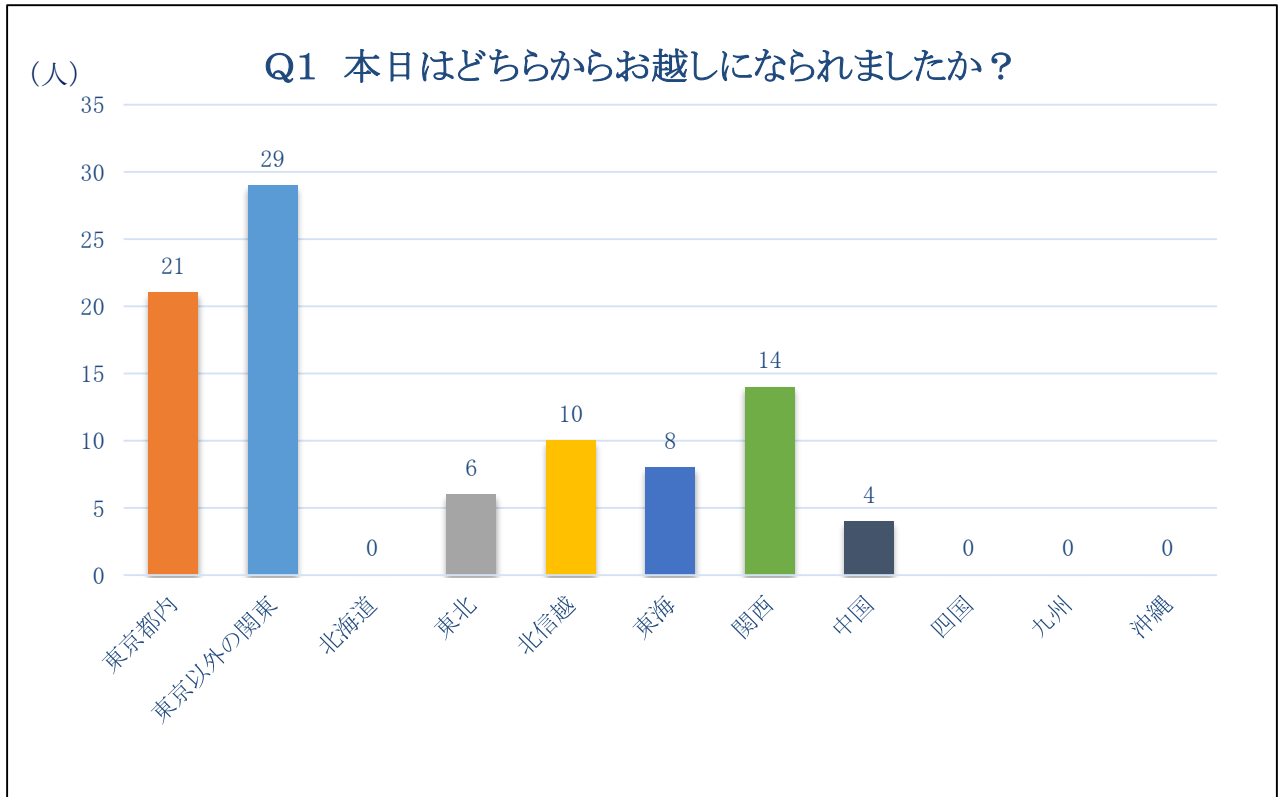
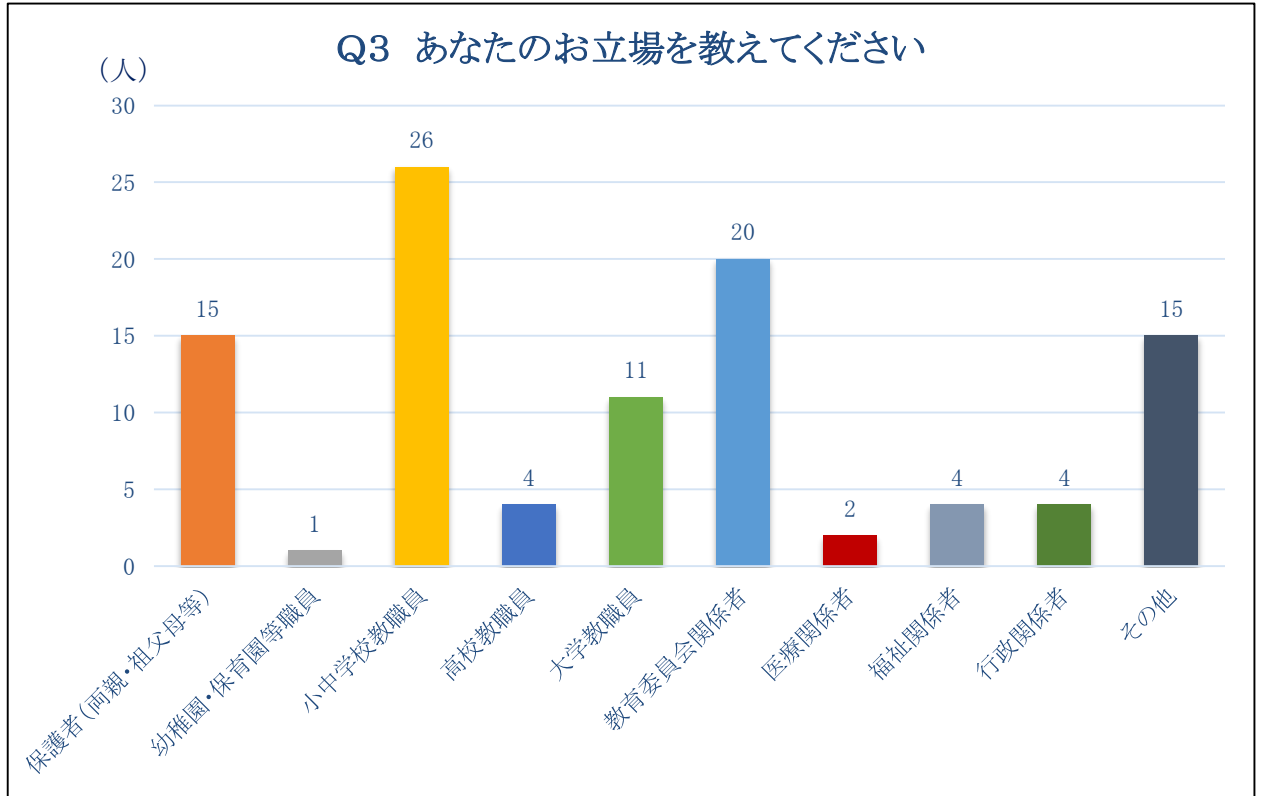


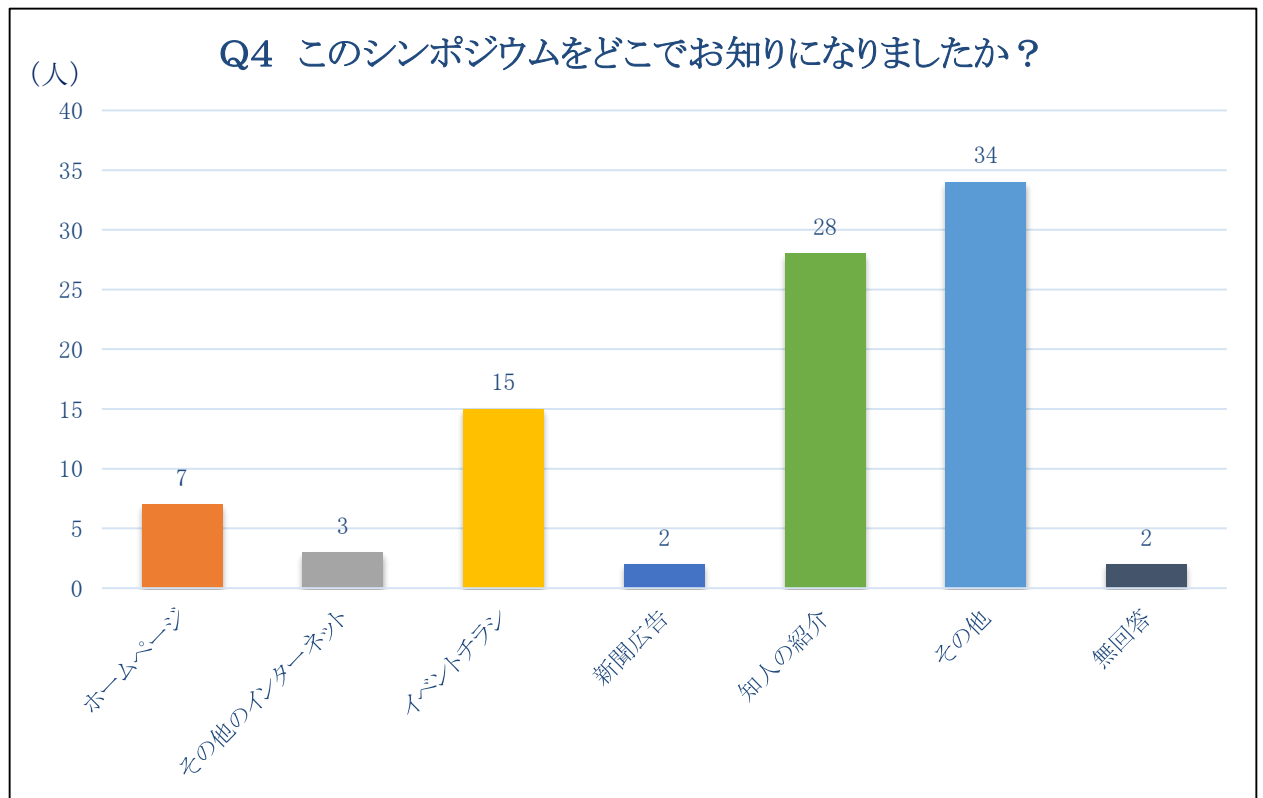
# 子どもみんなプロジェクト キックオフシンポジウム アンケート集計結果



### Q3 あなたのお立場を教えてください



### Q4 このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？



\*その他のご回答 : 新宿区発達支援講座にて案内を頂き、子どものこころ発達研究センターより職場にチラシが届いた、全日本ママ起業連合会 岩堀美雪先生より(複数)、連携大学からの説明、和久田先生、長谷川先生のセミナーにて、連携教委の関係者として案内をいただいて(複数)、和久田先生の講演会(複数)、鳥取大学附属 子どもの発達学習研究センター、立ち上げから関わらせていただいている、職場内メール、区の子ども家庭センターのイベントでのシンポジウムの紹介、ダイレクトメール、武庫川女子大学 河合教授より、研究者より案内、子どもの発達科学研究所の会報、連合小児発達科学研究所

## Q5 「子どもみんなプロジェクト」の今後に何を期待しますか。

### 連携

- 各立場の取組は元々十分なレベルに達しているが、問題なのは相互連携。
- 文科省、厚生省とも連携を。
- 素晴らしい研究結果等が現場などで共有・連携がとれていないことが残念。ぜひプラットフォームを実現して頂き、情報の活用、現状打破に結び付けていただきたい。
- 多くの現場の先生方が参加できる研究会のようなイベントを企画していただきたい。

### プログラム開発

- 現場での成功事例、教材教具等も含めたエビデンスに基づいた指導方法の共有化、プログラムの開発を期待する。
- 成果が明瞭に見えるような研究であれば、現場で取り入れることができると考える。学校が事後対応で疲弊することを予防するために何をすればいいのか科学的根拠のある研究者のお話を聞く機会が増えていくといいと思う。
- これまで不登校・問題行動・キレやすい等の課題に対し「命の教育」「心の教育」などと称して「動物にさわる」等の場当たりの、実効性のない指導教材を押し付けられてきたが、脳科学・精神医学・心理学にもとづく知見で問題解決の方法を模索すべき。そうしたプログラムの開発を期待する。

### 研究

- 研究指定校をつくって見に行けるようにしてほしい。
- 全体的な研究の成果発表

### 教員養成・研修

- 大学の教員養成課程の改革。大学では実践もきちんと教わらず、研究理論についても実践に還元できる形で教わらない。教職課程にきちんと「実践的な方法論」と「それを支える研究知見」を学べるプログラムが入らなければ問題は解決しないと思う。
- エビデンスのある教育研修のプログラム開発。⇒免許取得時にこの研修を受けられるようにする。(大学教授の指導力向上)⇒教員の力量アップが教育の質のアップにつながる。
- ぜひ今日のシンポジストである長谷川先生・猿渡先生の元で研修を積み、全国の教育者にそのノウハウを共有してほしい。

### 具体化

- 具体的に何をしていくのかが見えてこない。あまりに課題とやるべきことが大きすぎる。展望が見えない。プログラムや研修は今も多くあるが、現場でそれを実行するところが問題である中心。
- 今の現状を知ることはできたが、具体的にどうしたらよいかを伝えることが大切。

### 保護者への啓発

- 親へのアプローチ(特になかなか理解をしていただけない一部の大人・親への)を考えてほしい。母親への教育の場も必要だと思う。
- 学校の現場以外に保護者の方にも取り組みをしってほしい。

### 対象年齢拡大

- 玉井先生のご講演から、時代、環境の大きな変化と今後コミュニケーション能力の育成の重要性等、よく理解できた。幼児教育～小学校教育はますます大変になると思う。特に幼稚園、保育園の教師、保育士さんの質の向上は必要。このプロジェクトに幼保の参加促進を期待する。
- 調査研究の対象についていづれ大学生まで拡大してほしい

## Q6 ホームページにどのような情報があればよいと思いますか。

### 相談窓口

- 困った時の相談窓口、相談、解決事例
- ウェブサイトを大いに利用すべき。窓口だけでなく、情報の共有と討論できるフォーラムをonlineでできるようにしてほしい。

### 研究成果

- 調査研究結果の周知。役立つ研究内容の報告。研究の具体例。教育実践の情報。
- 研究からわかっている、教育に関わる日頃大人が心がけると良いことなど

### 事例・実践例

- 勇者への旅の実践報告、実践方法
- 効果的な実践例の紹介
- 長谷川先生が教えてくださったような生徒の声にこう応えるなどの一問一答的な簡単なアドバイス

### プロジェクトの成果報告等

- プロジェクトの流れや今後の現場が協力できることの要請等。
- 本日を含む各地でのシンポジウムの動画を無料でみられるようにしていただきたい。

## Q7 「子どもみんなプロジェクト」全般に関するご意見・ご要望

### 連携

- 研究者と現場の教職員の直接の交流の機会。
- 教育委員会同士の深められたらありがたい。
- 「実践」と「理論」がこれほどまでに乖離しているのかと愕然とした。研究者と実践者がお互いにバカにし合っているこの状況を変えたい。
- お互いの機関へのお願いで止まらないように。

### 具体的対策

- 教育現場において教師が保護者に説得できる裏付けになる知識やQ&Aがあれば大きな自信となる。
- 具体策(清水先生の提示されたプログラムのような)ものを出来る限り示し、現場がそれを知り、使えるしくみ作りを望む。
- 効果のない指導だとわかっている、こういうふうには授業をしないと指導主事に注意されるという若手教員がいる。そのような現場を作らないようなプロジェクトをお願いしたい。

### 別の視点

- 一般の方、保護者の方も参加しているとは思えない内容。誰にでもわかる言葉で丁寧に説明するのがあたりまえのことと考える。なぜ全体的に教育・教員視点なのか。教育・教員外に責任を求めている気がする。教育以外の視点を受け入れられないのであれば、プロジェクトは成立しない。
- 保護者の視点が抜けている。現場では保護者対応が重荷になっており、かなり時間を割かれる。その対策なくしては、子どもの問題行動を減らしていくのは難しいと考える。乳幼児の発達が後の行動に影響を及ぼすことを考えるとなおさらである。

### 教員養成

- 教員養成へのアプローチをもっと積極的にしてください。

### 現場の声

- 長谷川氏のような学校現場の力のある先生の声をどんどん取り上げてほしい。

### 研究

- 9大学がしっかりと連携を取り、それぞれの取組の情報共有や提供をしていただきたいと思う。
- 研究結果をかみくだいてわかりやすい言葉でまとめていただきたい。
- 調査研究を行う際に留意いただきたいこと。①現場の多忙化とならない配慮(研究成果が生かされれば、多忙化も解消される)。②保護者、生徒のプライバシーの配慮(保護者の考えが多様であること)。